


# わがまち茨木

## 道標編 (第三版)

 茨木市教育委員会

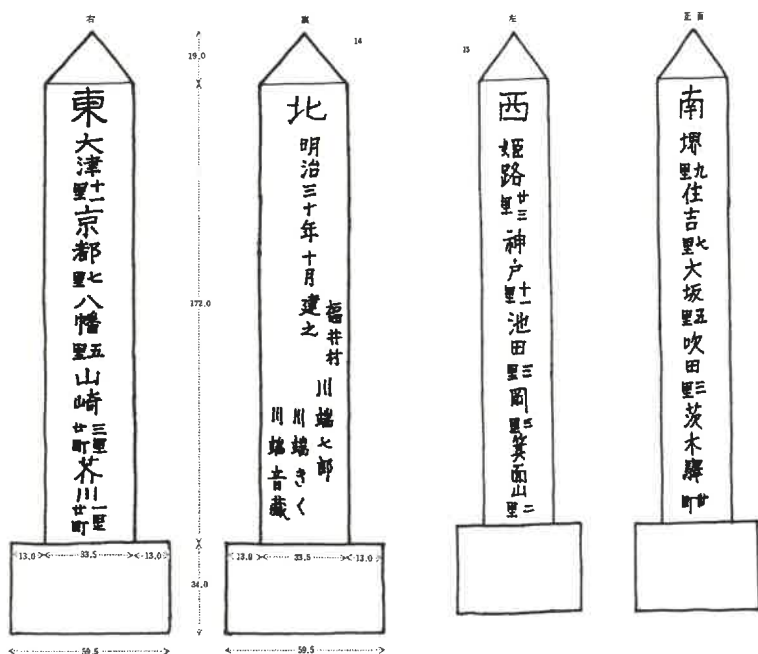
## 9 中河原の道標

現 在 地：中河原町

西国街道と亀岡街道との交差点に立っている。本市にある柱形状の道標では最大のものである。明治に、福井村の川端一族の人が建てたものであるから、何か特別の理由があったのであろうと思うが、それは何も書いていない。石材が大きいだけでなく、文字の彫りも深く実に立派なものである。

東・西・南の方角にしたがって行く先、距離を、遠くのほうから、次第に近く在所へと書いている。当時の重要場所がどこであったかがうかがわれる。注意を引くのは、ここでも茨木駅があり、箕面山を書いていることである。箕面山が景勝・行楽地になったのは江戸時代以前からのことであるが、殊に江戸時代には、風流の人々の来遊も多かった。明治31年(1898年)5月には、大阪府の公園となっている。

昭和57年3月18日、この道標にトラックがあたり、二つに折れてしまった。そこで新しく造られたのが、現在見られるものである。折れた古い道標は茨木市立文化財資料館に保管されている。



## 5 4 郡山宿の道標

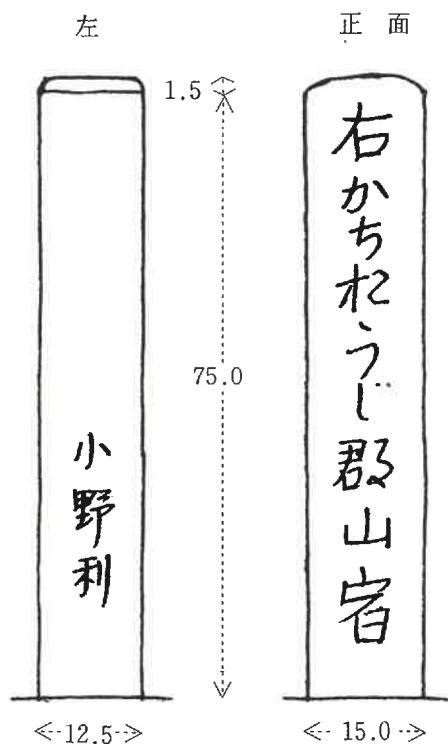
現 在 地 茨木市立文化財資料館内

元所在地 郡山二丁目

宿川原で西国街道と分かれた茨木街道が、郡小学校の横を通って郡山村落に入ったところ、道路は丁字形になっている。その右手角に立っていた。

細長い石材に、勝尾寺と郡山宿の案内が書かれている。文字は大きく、はっきりしている。茨木方面から来た人のために書いたものである。文字や言い方などから見て、江戸時代のものと判断できる。設立者は小野某であるが、下の文字は読めなかった。近くの人であろう。

郡山宿は、江戸時代に宿場として栄えた。西国街道の京都から西宮までのちょうど中間にあたり、大駅として本陣・脇本陣があり、問屋場には馬 25 頭、人夫 25 人を常備していた。旅籠・茶店もあって、人通りも多く賑やかな宿場であった。郡山宿本陣（椿の本陣）は現存している。



## 57 壁に塗りこまれた道標

現在地 本町

茨木別院の西の道を北へ行くと本町になる。本町の元化粧品小間物店の角に、半分壁に塗りこまれた道標がある。塗りこまれているので全貌はわからない。現在見えている部分から観察すると、石材は大きく、文字も深く彫られて立派なものである。

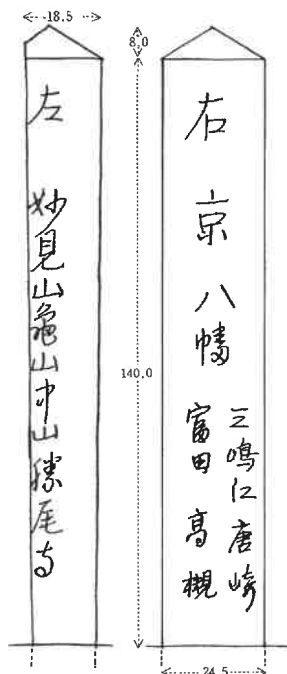
茨木街道と高槻街道とは、茨木川にかかる高橋で合流する。それより茨木町内を東に進むが、どの道を通ったのかよくわからなかったが、この道標のあることにより推察できるのである。それによると、茨木別院の西の道路を北に行き、この道標の在る所から東に折れて、竹橋町の辻まで出る。ここで二つの街道が分かれるのである。

案内は、京都方面と、北の山中方面である。八幡は石清水八幡宮であり、三島江・唐崎はともに淀川べりで、ここから舟に乗ることができた。富田・高槻はこの地方の中心都市（在郷町）である。

本市内の道標で、神社名のあるのは珍しい。八幡宮と道祖神社といぼ水（磯良神社）だけである。石清水八幡宮は京都府綴喜郡八幡町にある。貞観元年（859年）僧行教が九州宇佐八幡宮を勧請したのが起源である。朝廷の崇敬厚く、伊勢神宮に次ぐほどであった。

また、源氏の氏神として武家の信仰も厚く、保護されて社運は隆盛をきわめた。したがって一般民衆からも信仰されて参拝する者が多い。現在も信者多く、特に正月には厄払いのための参詣者で混雑するほどである。

中山寺は兵庫県宝塚市にあって、本尊は十一面観音である。開基は聖徳太子と伝え、真言宗の寺院である。安産の仏として祈祷をし、腹帯や安産札を与えている。また、それぞれの塔頭寺院では学業成就や金運・開運の祈祷をなし、お札を与えているので、参拝者が多い。



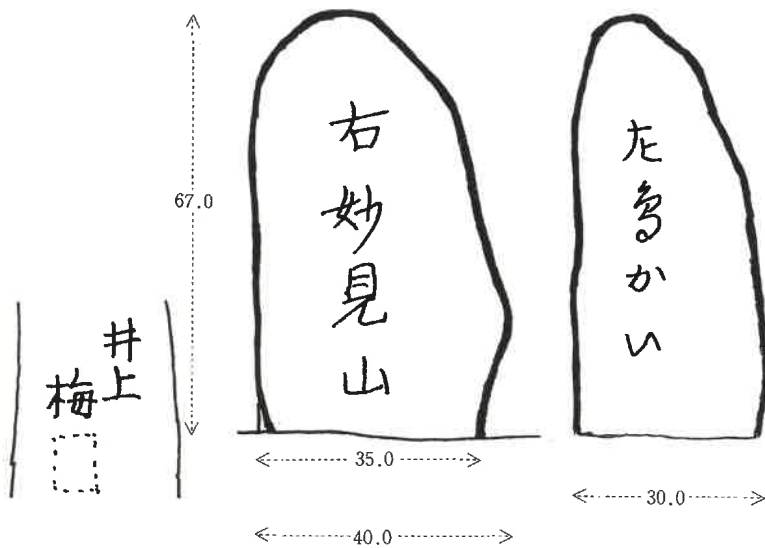


## 8 1 島の道標

現 在 地 島二丁目

明治の地図を見ると、枝切街道は島村落内で大へん曲がっている。そこで村内に建てられたのが、これである。自然石で民家の隅に立っているから見つけにくい。

案内先は、妙見山と鳥飼である。妙見山信仰の広いことが、今さらのように感じられる。設立者は井上梅口である。設立年代はわからない。



## 86 泉原の忍頂寺道標

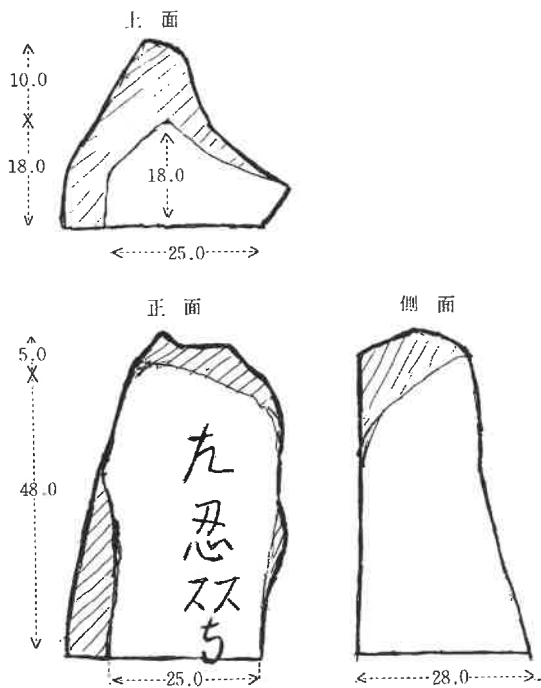
現在地 茨木市立文化財資料館 史跡公園内

元所在地 泉原

亀岡街道の泉原バス停から500m余り北へ歩き、そこより西へ野道を下って100m余り行ったところに建っていたが、後に土に埋もれて顧みる人もなくなっていた。昭和59年2月、地元の方々により掘り起こされ、茨木市教育委員会へ持ち込まれ文化財資料館北側の史跡公園に立っている。

はじめに建てられたところは、清溪村より忍頂寺村へ行く旧道で、野道との交差点であった。現在は田圃へ行く農家の人たちの道になっている。この道標の存在によって街道であることが証明された。

道標は高さ57cm程の小さい自然石に「右 忍双寺」と、寺名を彫っている。「双」は「頂」の異体で、異体を用いているところに興味がある。

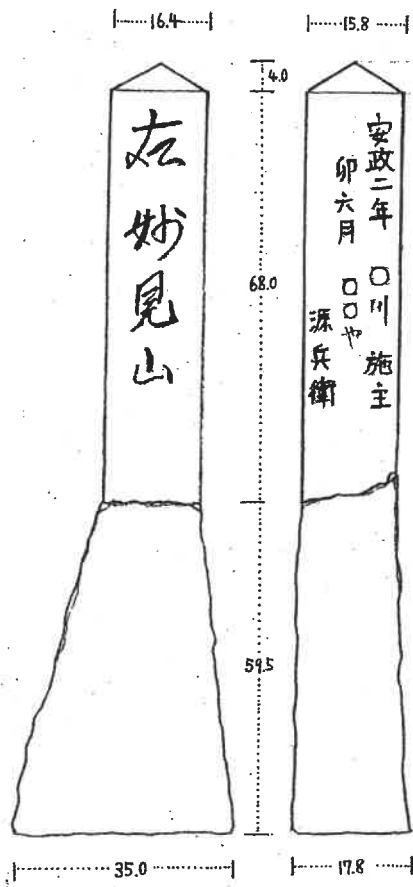


## 89 妙見山と書かれた道標

現在地 茨木市立文化財資料館 史跡公園内  
元所在地 不明

全長 131.5 cmであるが、下部の 59.5 cmは、当初から土の中に埋もれることを前提に荒削りのみ施している。重量は相当重いものである。

正面に、「左 妙見山」と書かれ、右側面には、「安政二年 卯六月 ○○施主 ○○ 源兵衛」と書かれている。最初の○○の部分には、芥川と読めるようなので、現高槻市の源兵衛さんが建てたのであろう。安政二年（1855年）とあり、この頃の道標は市内で2本目である。



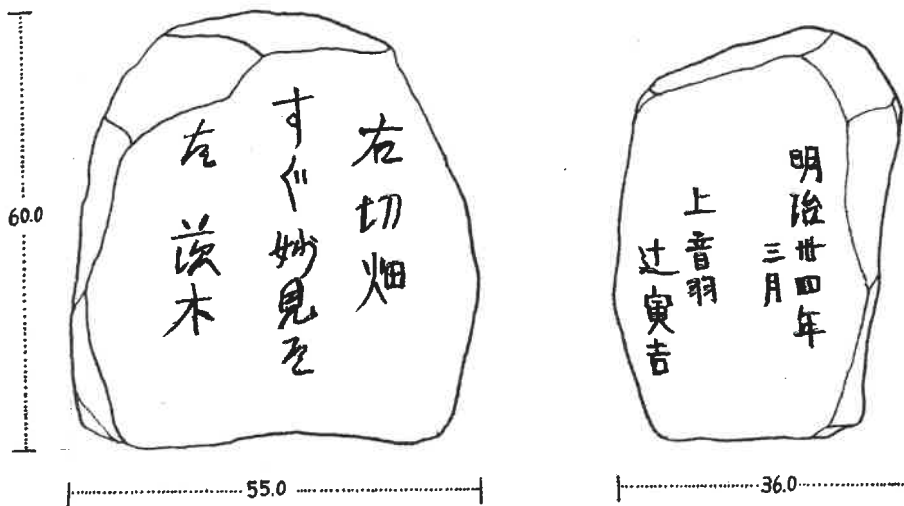
## 90 すぐ妙見山と書かれた道標

現在地 茨木市立文化財資料館 史跡公園内

元所在地 不明

文字を彫る正面と裏面だけ平たくし、他は自然石のように荒削りをした石で、妙見山まで行く人の案内と、「右 切畑 左 茨木」と書かれ、裏面にはこの道標を建てた人と、明治34年3月の文字がていねいに書かれている。

正面に彫られた案内からすると東の方から妙見山へ行く人への案内であろうか。





## 9 1 加ち於じ・そうじ寺と書かれた道標

現 在 地 茨木市立文化財資料館 史跡公園内

元所在地 不 明

細長い石材に、勝尾寺と総持寺への案内が書かれている。文字ははっきりとしているが深くはない。裏面には、設立者等が書かれていると思われるが、判読できない。文字や言い方などから見て、江戸時代のもと考えられる。

元の場所は不明であるが、現在文化財資料館北側の史跡公園内に移築されている。

